|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 別紙様式（簡易版） | | |  |  | |
| チェックシート | | |  |  | |
| 作成者は太枠内を記入してください。 | | |
|  | 作成者氏名 |  | | |

**記載事項**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 森林の所在場所 | 市町村　　　　　　　大字　　　　　　　　字　　　　　　　　番地 | |
| 樹種 |  |  |
| 林齢 | 年 |  |
| 樹高 | ｍ |  |
| 皆伐面積 | ha |  |
| ｈa当たり蓄積・材積 | ｍ3 |  |
| 地位 |  | 山形県における県皆伐・更新施業の手引きの巻末に記載している「山形県におけるスギの生産管理基準」の50年伐期収穫予測を参考に判断してください。 |
| 該当チェック | 伐採予定地の状況 | |
| □ある  □なし | 天然更新が可能な母樹が林内にある、又は、充分な種子の供給源（広葉樹）が伐採予定地に隣接(概ね30ｍ以内) している。 | |
| □ある  □なし | 伐採前の林内に後継樹となる稚樹、幼樹等が充分に生育している。 | |
| □はい  □いいえ | 林床がササ、クズ、ツバキ類などで覆われていない。 | |
| □はい  □いいえ | 伐採予定地は岩石地、湿地、尾根筋、急傾斜地、悪質土壌地等でない。 | |

(1)　チェックシートは皆伐後に天然更新を計画する場合に作成してください。

(2)　チェックシートには位置図（1/25,000以上の地形図等）と伐採前の現況が分かる写真（伐採予定地の隣接部や

林床部が分かる全景と近景の写真）を添付してください。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　以下は有資格者が記載してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 確認月日 | 年　　　月　　　日 |
| 確認者氏名 |  |

|  |
| --- |
| **伐採後の天然更新の計画に対する確認者（有資格者）の意見等**（該当項目にチェック） |
| □地位がⅠ等地及びⅡ等地ですので、資源の循環利用の観点から皆伐後は再造林（植栽）をしてください。  □地位がⅢ等地ですので、針広混交林化又は後継樹の侵入を図るため、抜き伐り・択伐や強度の間伐等の実施を検討してください。  □伐採予定地は、確実な天然更新が見込めないので、皆伐後は植栽を行ってください。  □天然更新は、伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して５年が経過する日までに更新が図られていない場合、その後２年以内に植栽又は天然更新補助作業を行う必要があります。  □その他・助言等  （　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |
|  |  |  |

**記載事項**

　　　　　　　　　　　　参考資料

○チェックシート作成のポイントについて（作成者）

チェックシートは伐採予定地の基本情報を把握し、更新予測などの資料に利用します。

育成林の皆伐後に天然更新を計画する場合は必ず作成し、有資格者の確認を受けてください。

【記載事項】（プロット調査のほか、森林簿情報等からの転記も可）

・樹高：プロット調査等により、被圧木などを除いた立木の平均樹高を求める。

・ha当たり蓄積・材積：調査プロット内の立木の幹材積合計をヘクタール換算して求める。

・地位：「山形県における皆伐・更新施業の手引き」巻末の参考資料「山形県におけるスギの生産管理基準（抜粋）」、50年伐期収穫予測を参考に判断する。

・伐採予定地の林内・周囲の状況の項目に有無のチェックを入れる。

林地現況は作成者の判断で記載して構わないが、確認者（有資格者）からの修正を求められた際は、再度検討すること。

○適正確認（審査）のポイントについて（確認者・有資格者）

【天然更新の判断ポイント】（記載事項、写真、現地調査をもとに判断する。）

　・天然更新が可能な母樹（広葉樹）が林内にあるか。又は、周囲に種子の供給源となる広葉樹（斜面上方、隣接する周囲概ね30ｍ以内等）があるか。

・林床に生育する後継樹（稚樹及び幼木）があるか。

　・更新を阻害する草本類（ササ、クズ、ツバキ類等）等が林床を一面に覆っていないか。

・伐採地が岩石地や湿地、尾根筋、急傾斜地、悪質土壌地等の更新困難地ではないか。

【助言・指導について】

・作成者が記載したチェックシートの記載事項と現地状況に相違がある場合は、チェックシートを変更修正させてください。

・天然更新は、後継樹が確実に確保できる場合にのみ行うよう指導してください。

　（判断例：天然更新の判断ポイントの要件を全て満たし、後継樹となる稚樹の生育が良好など林地の環境等の要因を考慮し判断する。）

・上記の審査のポイントを参考に天然更新が見込めるか判断し、「伐採後の天然更新の計画に対する確認者（有資格者）のチェック・意見等」にチェック、助言等を記入してください。

　・地位は林業経営の適地判断のために確認するもので、地位がⅠ等地及びⅡ等地の場合は、皆伐後に再造林（植栽）を行うことができないか、地位がⅢ等地の場合は択伐・抜き伐り等をして針広混交林化することができないか指導してください。

　・天然更新を計画する場合は、５年が経過した時点で更新が図られていない場合、その後２年以内に植栽又は天然更新補助作業をしなければならない旨を必ず説明してください。

　・天然更新を計画する場合は、伐採の際、有用な母樹や後継樹を残すよう指導してください。